

芸 術

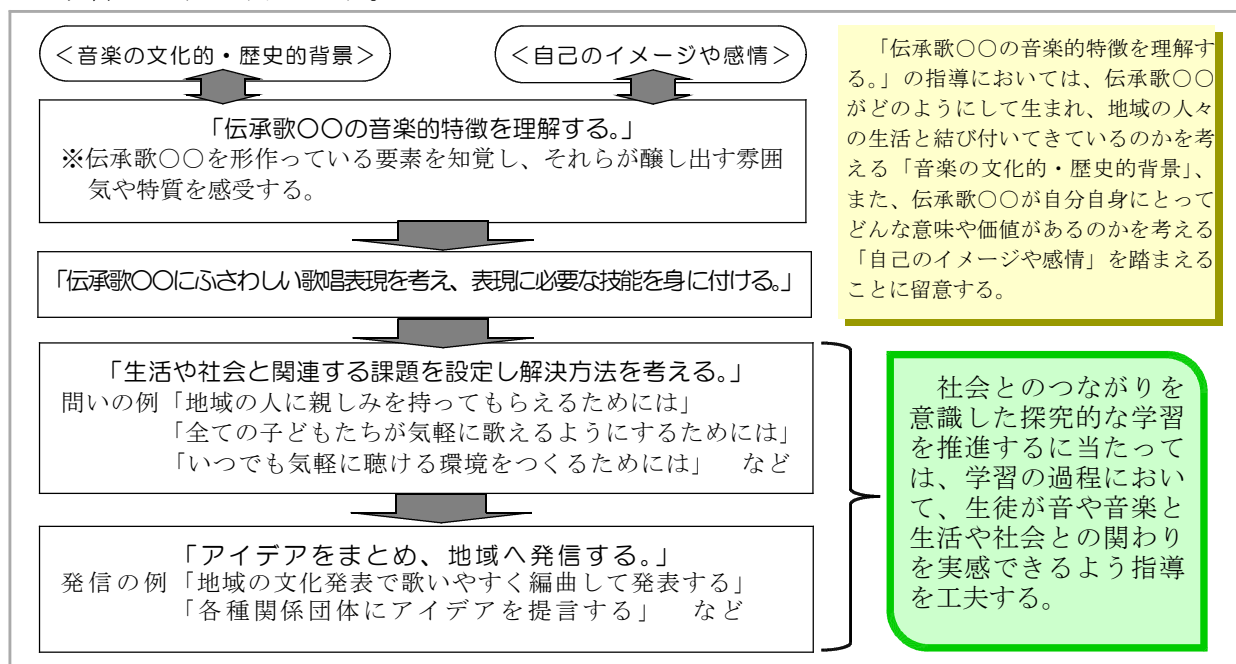
1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

芸術科においては、「生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成することを目指している。そのため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるといふ実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められている。各科目における見方・考え方を表現や鑑賞の学習を通して成長させることは、生徒一人一人が見方・考え方を働かせて、身の回りにある対象や事象と接する中で、これまで気付いていなかったよさや価値などに気付き、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わることにつながる重要な視点と考えられる。そして、このことは、心豊かに生きることや文化的な社会を創造していくことにもつながるのである。また、各科目における見方・考え方については、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

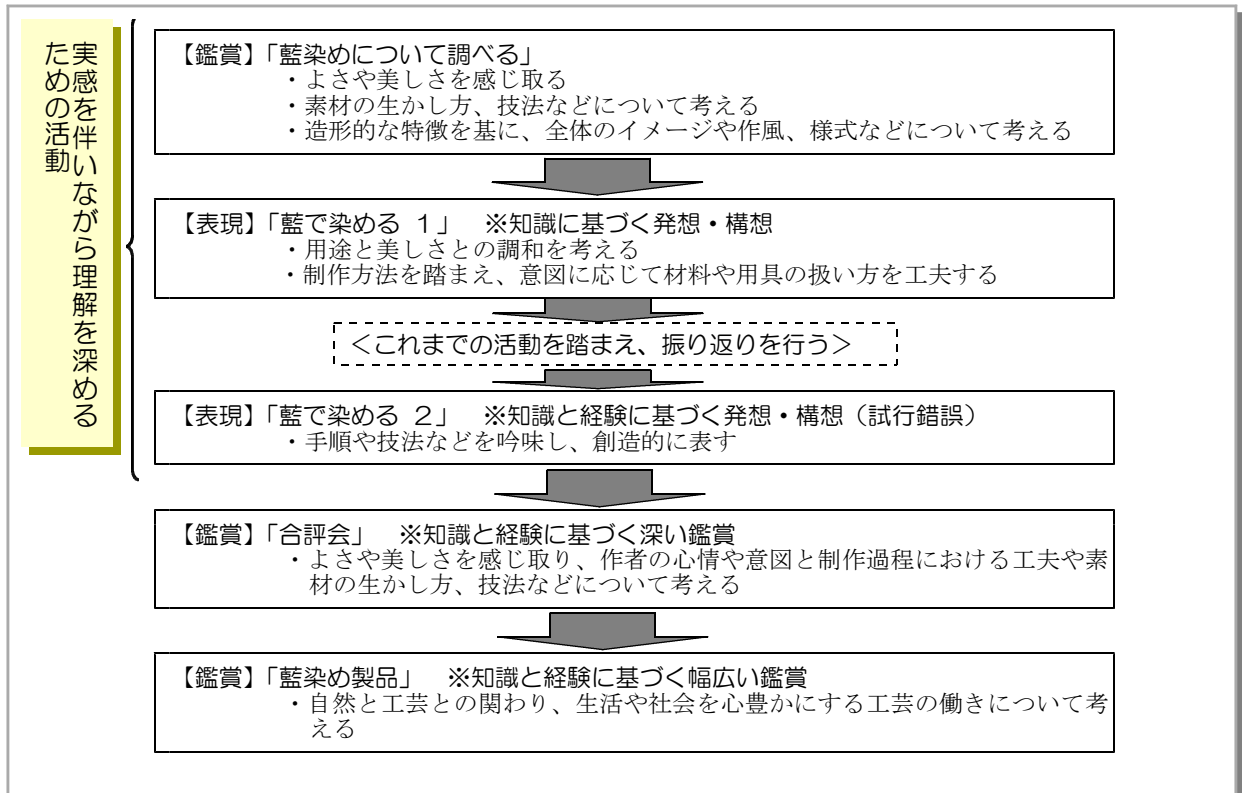
音楽においては、音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力」等を育成することを目指している。音楽は一人一人の思いや感情などを表現したものであると同時に、その表現は社会や文化の有り様と密接に関わっている。そのため、資質・能力の育成に当たっては、学習の過程において、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生徒が自覚できるよう指導をすることが大切である。

ここで、地域に伝わる「伝承歌」を題材として、社会とのつながりを意識した探究的な学習の過程の例を示す。



美術・工芸においては、幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、「美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力」等を育成することを目指している。そのため、生活や社会を造形的な視点から見つめられるような活動を展開するとともに、表現及び鑑賞のそれぞれの活動において、造形的な見方・考え方を働かせ、創造的に考えを巡らせることが必要である。また、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させ、造形的な視点について実感を伴いながら理解し、造形を豊かに捉える多様な視点をもてるようにすることが重要である。

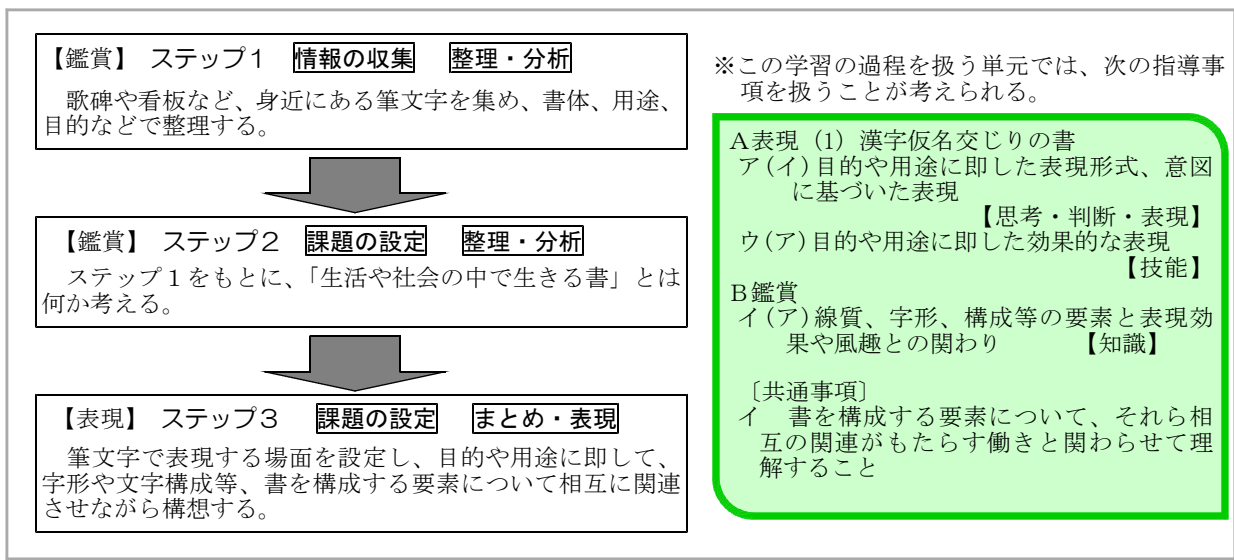
ここで、伝統工芸である「藍染め」を題材とし、鑑賞と表現を相互に関連させて、社会とのつながりを意識した探究的な学習の過程の例を示す。



書道においては、書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、「生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力」等を育成することを目指している。書を構成する要素がどのように相互に関連し、成り立っているのかという視点から、書をより分析的に捉えることで、表現や鑑賞の活動が生徒一人一人にとってより実感的なものとなる。そのため、生徒一人一人が、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすことができるよう指導することが大切である。

また、学習指導要領で新たに示された〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、表現及び鑑賞の活動を通して一体的に育成することが重要である。

ここで、「漢字仮名交じりの書」を扱った単元において、鑑賞と表現を相互に関連させて、社会とのつながりを意識した探究的な学習の過程の例を示す。



(2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

探究的な活動に対する評価においては、学習の過程や作品、発表などに見られる成果などについて、生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価することに留意し、指導と評価の一体化の観点から、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要である。こうした「指導に生かす評価」の充実を図るためには、生徒の作品やワークシートなどの共有、学習の過程の記録を容易に行うことができるICTの活用が効果的である。ICTの活用により、多様で大量の情報を収集、整理・分析ができるほか、教師と生徒、生徒同士が相互に情報の発信・受信のやりとりができることなどが期待される。

「指導に生かす評価」の充実を図るために、ICTの活用が効果的な場面	左記の場面に対するICTの活用例
○クラス全体の学習状況を把握	Google Formsによりアンケートや小テストを実施して結果を集計し、学習状況を把握し指導の改善に生かす。
○作品やワークシートなどの共有	学習支援ソフトに作品やワークシートなどを保管し、学習の進歩の状況を把握するとともに、教師からのコメントを入力する。
○生徒一人一人の学習の過程を記録 (例)音楽:作曲、美術:表現活動、書道:表現活動や構想の過程など	ICT端末上で作品を制作させたり、制作の様子をICT端末に録画させたりして、記録した生徒の学習の過程を教師用ICT端末で適宜把握し指導の改善に生かす。また、生徒自身が学習の過程を振り返り、学習改善に生かすことができるようにする。
○生徒のグループ活動の学習状況を把握 (例)音楽:楽曲解釈、美術:鑑賞活動、書道:鑑賞活動 など	Jamboard等によりグループで意見交流した内容をまとめ、スライドで一括して学習状況を把握し、指導の改善に生かす。

一方、観点別学習状況の評価の「記録に残す評価」については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。なお、「記録に残す評価」における評価の3観点については、年間を通じてバランスよく評価する必要がある。

	<p>○箏の概要と演奏の基本について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の歴史や人々との関わり等の文化的・歴史的背景などを知る。 ・楽器の各部位の名称、演奏時の姿勢、爪の当て方などを知る。 ・基本練習を通し、箏の基本的な奏法を知る。 			
2	<p>問い：どのようにしたら箏らしい音を出せるだろう。</p> <p>○箏の基本的な奏法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら」、「うさぎ」などの演奏を通して、基本的な奏法を身に付ける。 ・爪の当て方によって出る音が変わることに注目させ、どのようにすると箏らしい響きとなるかを考えながら演奏に取り組む。 <p>ICT 端末を用いて演奏動画を撮影させ、習得状況の把握に活用するとともに、生徒自身が視聴することで奏法の確認等に生かす。（詳細は「ク(ア)」に記載）</p>			
	<p>問い：どのような演奏表現があるだろう。</p> <p>○箏の様々な奏法に触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら変奏曲」を聴き、箏には様々な奏法があることを知る。 ・ピッツィカートやスクイ爪など様々な奏法を用いて「さくら」を演奏し、奏法によって音色や曲想がどのように変化するか整理する。 			
3	<p>問い：箏のよさや美しさはどのようなところだろう。</p> <p>○箏のもつよさや美しさを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の楽器で演奏した「さくら」や箏に似た他地域の楽器の演奏等と比較し、箏の音楽的な特徴を知覚・感受する。 ・これまでの学習をもとに自分の感じた箏のよさや美しさについて考えるとともに、「箏の魅力を伝え、人々に一層親んでもらうためにはどうすればよいか」について考え、整理する。 			知
4	<p>問い：箏のよさや美しさを伝えるためにはどのように演奏したらよieldろうか。</p> <p>○よさや美しさを伝えるための演奏に向けて準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏する楽曲を決定するとともに、どのように演奏するかについて自分の考えを整理する。 <p>ワークシートをデジタル化し、編集履歴が残るようにして指導に活用する。（詳細は「ク(イ)」に記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏のよさや美しさを伝えるための演奏に向けて取り組むとともに、発表資料を作成する。 			思
5	<p>問い：伝統文化を学ぶことにはどのような意味があるだろうか。</p> <p>○発表資料を完成させ、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏動画を撮影して発表資料を完成し、ペアやグループで交流する。 ・学習したことを踏まえて問いについて考え、題材全体の振り返りの文章を作成する。 		技	態

キ 学習指導案（4時間目／5時間中）

本時の目標：どのように演奏するかについて表現意図をもち、音楽表現を創意工夫することができる。		
過程	○学習内容 ・学習活動	●指導上の留意点 ◆評価方法
導入 5分	○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 ・振り返りシートや演奏動画を確認する。 ・本時の目標を確認する。	●前時に作成したワークシートを紹介するなどして、学びのつながりを意識させた上で本時の学習の見通しがもてるようにする。
展開 35分	○演奏する楽曲を決定するとともに、どのように演奏するかについて自分の考えを整理する。 ・前時に整理した自分の考えを基に、どの楽曲を演奏するのかを決定する。 ・テンポや強弱、用いる奏法など、どのように演奏するかについて考え、ワークシートに入力する。 ○箏のよさや美しさを伝えるための演奏に向けて取り組むとともに、発表資料を作成する。 ・演奏の実現に向け、練習を重ねる。 ・自分の考える箏のよさや美しさについて、発表資料として整理する。	●演奏する楽曲の決定に当たっては、既習曲を想定しているが、生徒の習熟の状況や整理した考え方によっては、その他の箏の楽曲や、箏の楽曲以外の旋律を取り上げることも考えられる。 ●考えを入力するだけでなく、演奏して試しながら創意工夫を重ねられるよう促す。 ◆「どのように演奏するか」について整理したワークシート【思考・判断・表現】 ●資料は、よさや美しさを説明するためのスライドに加え、演奏動画を貼り付けたスライドの計2～3枚程度を基本として構成する。 ●発表資料の作成に時間がとられないよう、これまでの学習の中で入力したワークシートの文言をコピーして用いるなど、効率的に作業を行えるよう指導する。
まとめ 10分	○本時の学習を振り返る。 ・ペアやグループで演奏動画を撮影し、自分の演奏の状況を客観的に捉える。 ・振り返りシートを記入し、本時の取組を振り返るとともに、次時の見通しをもつ。	●撮影した動画は提出させ、状況に応じて生徒の学習状況を把握し、指導方法の改善に生かす。

ク 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

(7) 「技能」に関する工夫

本題材における「技能」の「記録に残す評価」は、第5時において撮影した演奏動画を主な対象として行うこととしている。「指導に生かす評価」の工夫としては、第5時までにも継続的に動画を撮影して活用することが考えられる。

例えば、授業終了時点で撮影した演奏動画を提出させることで、授業中に十分に観察を行えなかった生徒の習得状況を把握することができ、指導方法の改善に生かすことができる。加えて、継続的に動画を撮影していくことで、生徒の習得状況を連続的に捉えることができる。

なお、生徒自身が動画を視聴することによって、自身の学習状況を客観的に捉えたり、自身の演奏の変容を捉えたりすることができ、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な技能の習得に資すると考えられる。



動画の提出にはいくつか方法があると考えられるが、「箏・動画ボックス」のように提出用フォルダを作成しておき、一か所に追加させていくことで、動画の比較も容易になる。

ファイル
提出日時: 2022/12/09, 10:33
履歴を表示

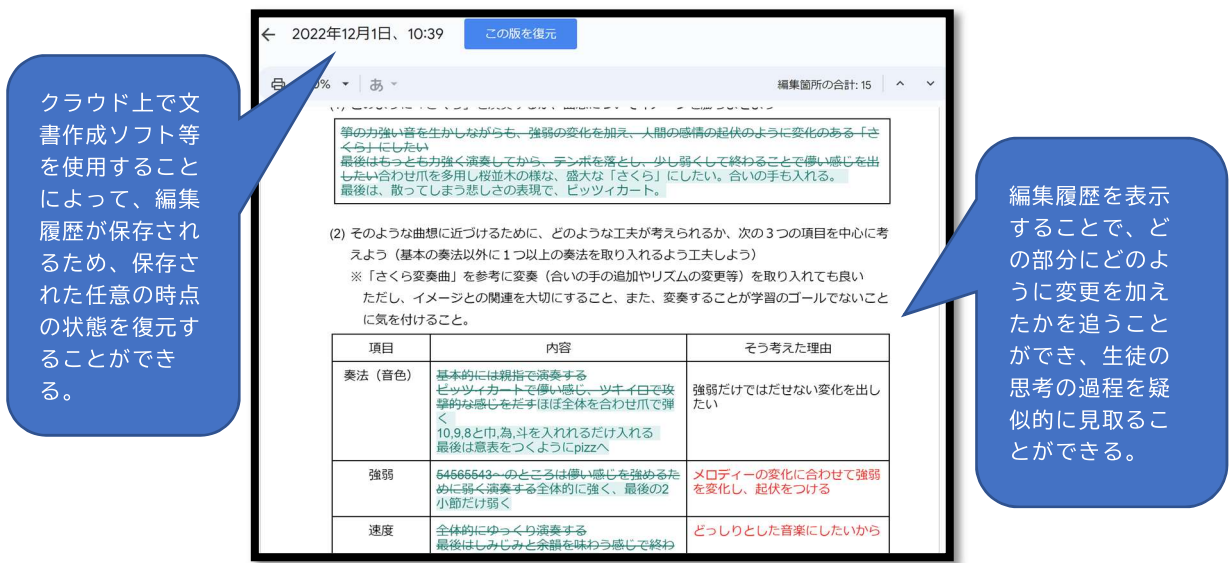
- VID_20221027_101845.mp4
- VID_20221208_1019...
- VID_20221209_102333.mp4

(イ) 「知識」及び「思考・判断・表現」に関する工夫

本題材における、「知識」の「記録に残す評価」は第2時から第3時にかけてのワークシートの記述を主な対象として、「思考・判断・表現」の「記録に残す評価」は、第4時におけるワークシートの記述を主な対象として行うこととしている。「指導に生かす評価」の工夫としては、ワークシートをデジタル化して用いることが考えられる。

例えば、表現意図を整理する際のワークシートに文書作成ソフトやJamboardを利用して編集履歴が残るようにするとともに、自身の考えに変化があった際には文書を削除するだけでなく取り消し線を用いたり、色を変えたりするなどして思考の過程が残るように指導する。こうすることで、生徒の学習の記録を参照することができるようになり、知識の習得の状況や表現意図に関する思考・判断の状況に応じた指導をすることができる。

なお、生徒自身が学習の記録を参照することによって、現在の自分の考えと比較するなどして、考えが一層深まることも考えられる。



クラウド上で文書作成ソフト等を使用することによって、編集履歴が保存されるため、保存された任意の時点の状態を復元することができる。

編集履歴を表示することで、どの部分にどのように変更を加えたかを追うことができ、生徒の思考の過程を疑似的に見取ることができる。

2022年12月1日, 10:39 この版を復元

編集箇所合計: 15

箏の力強い音を生かしながらも、強弱の変化を加え、人間の感情の起伏のように変化のある「さくら」にした
最後はもっとも強く演奏してから、テンポを落とし、少し弱くして終わることで偉い感じを出したい
最後は、散ってしまう悲しさの表現で、ピッツィカート。

(2) そのような曲想に近づけるために、どのような工夫が考えられるか、次の3つの項目を中心に考えよう（基本の奏法以外に1つ以上の奏法を取り入れるよう工夫しよう）
※「さくら変奏曲」を参考に奏法（合いの手追加やリズムの変更等）を取り入れても良い
ただし、イメージとの関連を大切にすること、また、変更することが学習のゴールでないことに気を付けること。

項目	内容	そう考えた理由
奏法（音色）	基本的には親指で演奏する ピッツィカートで偉い感じ、ツキイ白で攻撃的な感じをだすほぼ全体を合わせ爪で弾く 10.9.8と巾、為、斗を入れるだけ入れる 最後は息表をつくようにpizza	強弱だけではだせない変化を出したい
強弱	6.4566543~のところは偉い感じを強めるために弱く演奏する全体的に強く、最後の2小節だけ弱く	メロディーの変化に合わせて強弱を変化し、起伏をつける
速度	全体的にゆっくり演奏する 最後はしみじみと余韻を味わう感じで終わ	どっしりとした音楽にしたいから

(2) 美術 I の計画例

ア 題材名 「誰かのためのハザードマップを作る」

イ 内容のまとめ 「A表現」(3)映像メディア表現、「B鑑賞」(1)鑑賞
及び〔共通事項〕

ウ 題材の目標

(ア)「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・映像メディアの特性を生かして、色や形、画像の組み合わせなど、表現方法を創意工夫し、主題に応じて発想や構想したことを創造的に表している。

(「A表現」(3)イ(ア)(イ))

- ・ハザードマップ全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する。

(〔共通事項〕(1)イ)

(イ)「思考力・判断力・表現力等」に関する題材の目標

- ・ハザードマップ作成の目的から主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。

(「A表現」(3)ア(ア)(イ))

- ・映像メディア機器等の表現のよさを感じ取り、生活や社会の中にある美術の働きについて考え、見方や感じ方を深める。

(「B鑑賞」(1)イ(ア))

(ウ)「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・主体的に映像メディア機器等による表現の創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 映像メディア機器等の用具の特性を生かして表現方法を工夫している。</p> <p>技 ハザードマップの目的を理解して、発想や構想したことを創造的に表している。</p>	<p>発 ハザードマップの目的を理解して適切な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 映像メディア機器等の表現のよさを感じ取り、生活や社会の中にある美術文化についての見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に生活や社会の中の美術の働きについて考えを深めようとしている。</p>

オ 題材の指導と評価の計画（全9時間）

時	学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知・技	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> 映像メディア機器やICT端末等で地理院地図アプリ等を活用する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 地理院地図を活用するに当たって、著作権などの知的財産権について触れる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 自治体のハザードマップを調べ、情報収集する。 収集した情報をもとに、誰のためにハザードマップを作成するかを明確にする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「日本語が分からない人のためのハザードマップ」や「学校近隣に住む高齢者のためのハザードマップ」等、高齢者や外国人、災害時に苦勞が予想される人たちの困り感を想像しながら表現を考えさせる。 </div>	○	○	
		情報の収集、課題設定		
2	<ul style="list-style-type: none"> 目的（誰のためのハザードマップか）を基に、必要な情報を整理する。 目的を基に、完成予想図を描き、大まかなデザイン、配色等を決める。 	○	○	
		整理・分析		
		記録させる方法には、スケッチブックの他、表計算ソフトやJamboard等のICTを活用することも考えられる。		
3 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> 映像メディア機器やICT端末等を用い、ハザードマップを描き、完成させる。 	○	○	○
9	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞と振り返りを行う。 			○

カ 指導と評価の計画（3時間目／9時間中）

学習活動等	知・技	思	態	留意点・評価方法
○導入（5分） ・前時の振り返りと本時の流れを確認する。				<ul style="list-style-type: none"> 何を目的として情報を整理したかを確認させる。
○展開（40分）	知・技	発	態表	映像メディア機器等の用具の特性を生かして表現方法を

- ・最も効果的な地図情報をトリミングし、道路、河川、指定緊急避難場所等を描画していく。



図：描画ソフトによる作業画面

○まとめ（5分）

次時について説明する。

映像メディア機器やICT端末等を使用する際は、使用すること自体が目的化しないよう留意する必要がある。映像メディア表現では、主題の中心となる感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などが生徒にとって価値のある内容であり、映像メディアの特性を生かす必要性が実感できることが重要である。

工夫している。

態表

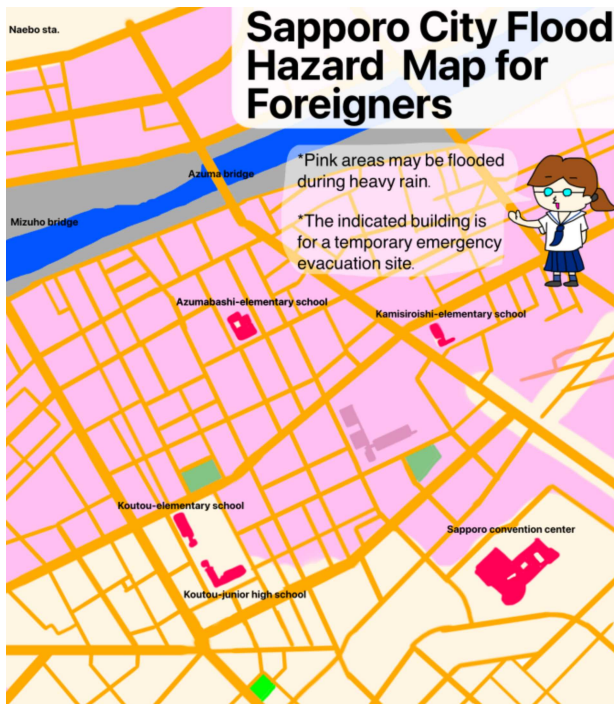
視覚的な見やすさや使いやすさを考えながら、映像メディア表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。

- ・スクリーンショットで撮影した画像を基に、描画させる。
- ・地図情報をそのまま使用すると、作業が膨大な量になるので、建造物の情報等は適宜加除訂正をして使用するよう伝える。
- ・情報を削除しすぎて、地図としての役割が損なわれないように伝える。

発

ハザードマップの目的を理解して適切な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。

【作成例：外国人向けハザードマップ（札幌H高校周辺）】



～留意事項等～

- 文書を英語で記載する。
- 情報が伝わりやすいよう表現する。
- ・ 臨時緊急避難場所…赤
- ・ 洪水時に危険な地域…ピンク
- ・ 公園等…緑
- ・ 道路…オレンジ
- ・ 河川…青
- ・ 河川敷…グレー
- ・ 札幌H高校（一時避難場所指定）…薄紫（画面中央）
- 生徒が情報を基に必要なだと判断した施設を追加したり、実際に撮影した画像を挿入したりするなどの工夫を促す。

キ 観点別学習状況の評価例

題材の評価規準		◎Aへの具体例 ■Cへの手立て
知	映像メディア機器等の用具の特性を生かして表現方法を工夫している。	◎映像メディア機器等の用具の特性を生かして、表現方法を工夫することができている。 ■共有ドライブに保存しているデータを用いて個別に指導を行う。
技	ハザードマップの目的を理解して、発想や構想したことを創造的に表している。	◎使用する人の立場に立って、情報を過不足なくまとめ、作品を創造的に表現している。 ■情報をどのようにまとめるか、情報の整理の仕方を改めて指導する。
発	ハザードマップの目的を理解して適切な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	◎目的を明確にした主題を生成し、作品を創造的に構成している。 ■ハザードマップの目的について再度説明し、教科書等を用いて、基礎的な構成原理や配色を改めて指導する。
鑑	映像メディア機器等の表現のよさを感じ取り、生活や社会の中にある美術文化についての見方や感じ方を深めている。	◎鑑賞活動から幅広い表現を感じ取り、造形的な見方や感じ方を深めている。 ■個々の作品において、作者が工夫した箇所を全体で共有して振り返り指導する。
態表	主体的に表現の創造活動に取り組もうとしている。	◎主体的に、映像メディア表現機器の特性を理解し、創造活動に取り組もうとしている。 ■実際にあった災害事例を紹介しながら、国民として社会に貢献できないかを考える機会を与え、発想の手助けをする。
態鑑	主体的に生活や社会の中の美術の働きについて見方・感じ方を深めようとしている。	◎実際に使用される状況を想像しながら主体的に作品を鑑賞し、心豊かな生活や社会を創造していく美術の働きについて幅広く考え、見方・感じ方を深めようとしている。 ■制作された作品が、実際にどのように使われていくかを考えさせる。

ク 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

(ア) 共有ドライブを用いた情報の共有

生徒の作品など学習成果の共有だけでなく、生徒同士のグループ活動でどのような気づきがあったかを可視化して共有するなど、生徒が学習の過程を把握できるよう、Jamboardやプレゼンテーションソフト等のデータを、共有ドライブに格納することにより、授業改善とともに、生徒の学習改善に生かすことができる。

また、本事例は、「場所」や「目的（使用者）」の選定により表現の工夫に違いが生じることから、共有ドライブを用いることで、教員は、生徒の活動状況や自己評価等を把握することができ、例えば、作業に遅れが生じている生徒に対して助言するなどの指導に生かすことができる。

(イ) 教科等横断的な取組による見方・考え方の深まり

本事例で作成したハザードマップについて、地理歴史科の科目「地理総合」で学習する「自然災害と防災」において活用するなど、教科等横断的な取組を推進することにより、生徒が生活や社会の中の美術の働きについて考えを深める機会とすることができる。

(3) 工芸 I の計画例

ア 題材名 「藍で染める」

イ 内容のまとめ 「A表現」(1)身近な生活と工芸、「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕

ウ 題材の目標

(ア) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・ 藍染めの方法を踏まえ、意図に応じて技法を生かす。(「A表現」(1)イ(ア))
- ・ 藍染めの手順や技法などを吟味し、創造的に表す。(「A表現」(1)イ(イ))
- ・ 造形の要素である形や色彩、素材の働きを理解する。(〔共通事項〕(1)ア)
- ・ 藍染めの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕(1)イ)

(イ) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・ 伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練る。(「A表現」(1)ア(イ))
- ・ よさや美しさを感じ取り、作者の意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア))
- ・ 自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)イ(ア))

(ウ) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・ 主体的に美しさとの調和を考え、工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。
- ・ 主体的によさや美しさを感じ取り、工芸の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 造形の要素である形や色彩、素材の働きを理解している。 ・ 藍染めの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 <p>技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めの方法を踏まえ、意図に応じて藍染めの技法を生かしている。 ・ 藍染めの手順や技法などを吟味し、創造的に表している。 	<p>発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めの伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練っている。 <p>鑑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めによさや美しさを感じ取り、作者の意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。 ・ 自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めている。 	<p>態表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に美しさとの調和を考え、工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 <p>態鑑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的によさや美しさを感じ取り、工芸の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

オ 題材の指導と評価の計画（全6時間）

時	学習活動等	知・技	思	態
鑑賞	1 伝統的な染め物、特に藍染めについて調べる。	知	鑑	態鑑
	2 調べたことをまとめ交流する。	知	鑑	態鑑
表現	3 制作方法を構想する。 主題の生成	知	発	態表
	4 藍染めを試し、制作方法を決定する。	知技	発	態表
	5 藍染めで制作する。 実物に触れる体験	技	発	態表
鑑賞	6 自他の作品を鑑賞し、交流する。		鑑	態鑑

ICTを活用し情報を収集・共有

ワークシートや活動の様子から見取る

教科等横断的(理科/地歴)な内容を含む

試した結果に応じて調整(試行錯誤)

生活や社会の中の工芸の働きについて考える学習活動を取り入れる。

ICTを活用し感想や意見を共有 ※ は記録に残す評価

カ 指導と評価の計画（1・2時間目／6時間中）

学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	留意点・評価方法
●学習のねらい・学習活動 鑑賞（1時間目） ・「藍染めについて調べる。」 ●染物の素材や様式などを理解する。 ●藍の特質やほかの染料との違いについて知る。 ●制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。 ●身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取る。	知	鑑	態鑑	紙の資料等とICTを併用する。 【ワークシート】 知 基本的な染めの技法、中でも藍染めの素材や様式の特質を理解しているか評価する。 鑑 制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めるとともに、単に技法としてだけでなく、身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取っているか評価する。 態鑑 主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか評価する。
鑑賞のまとめ（2時間目） ・調べたことをまとめる。 ●情報を共有、補完しあう。	知	鑑	態鑑	【ワークシート、発言の内容】 ※理科や地理歴史科との関連

記号等の表記は、以下のとおりである。

● 学習のねらい ・ 具体的な学習活動の内容 □ 題材の評価規準

【 】 評価の方法、生徒の状況を見取る方法 ※ 他教科との関連

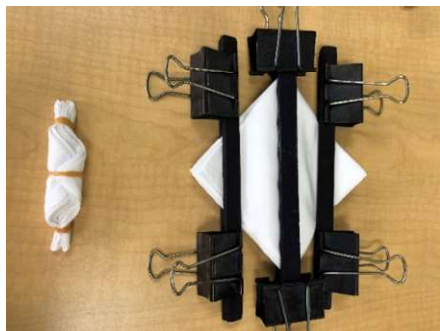
ゴシック体 題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等

キ 学習指導案（1・2時間目／6時間中）

本時の目標：藍染めについて知り、制作の構想へつなげる。		
過程	○学習内容 ・ 学習活動	●指導上の留意点 ◆評価
導入 3分	○全体の大まかな内容の確認 ・鑑賞と表現を関連付けることを再確認する。 ○本時の内容の確認 ・制作につなげる鑑賞の活動であることを確認する。	●単なる制作の予習ではなく、工芸と生活（社会）との関わりについて関心を持たせるよう配慮する。
展開 (前半) 47分	○藍染めの特徴等 ・特徴や優れた点などを調べる。 ○作例の情報収集 ・どんな技法でどんな造形ができそうか調べる。 ○グループ内で調べた情報を共有	●タブレットで各自調べさせ、紙のワークシートにメモさせる。 ●手軽な方法を調べさせる。 ●Jamboardで情報共有させる。 ◆必要な情報を得られたか。
展開 (後半) 47分	○説明をグループでスライドを共同編集 ○スライドを使ってクラスで発表し情報共有	●素材や技法の特性を示させる。 ●効果的に画像を使わせる。 ◆藍染めの価値を理解し、制作への見通しが立ったか。
まとめ 3分	○次回の内容へつなげるよう本時の内容の振り返り	●次回は構想し試作することを確認する。

資料 ～藍染めの具体例～

[布を染める技法]



左：輪ゴム絞り 右：板締め



左：輪ゴム絞り 右：板締め

[糸を染めてから織る技法]



「かせ」にした糸を水で濡らしてから染める。約1か月空気媒染し、染料を定着させる。

[染めた糸を織機かけて織る技法]



単に布を染める場合よりも、機材や時間を要するが、織体験は、染料だけでなく素材の特性やテキスタイルの構造の理解をより深めることができる。

いずれの場合も、藍の液に漬けて繊維に十分に浸透させたあと、空気に晒して酸化させることにより、藍の色素は青く発色し、繊維に定着する。この「空気媒染」は、藍特有の発色・定着のさせ方である（他の草木染めは、染料の性質が違い、金属イオンで媒染する必要がある）。一連の工程での鮮やかな色の変化は、生徒に驚きや感動をもたらす。

藍は鮮やかな深い青の発色が魅力だけでなく、抗菌作用、虫除け作用があり、世界各地で古来より重用されてきた。近年はより簡単な化学染料によって藍のような色味は出せるようになったが、発色以外の本物の藍のような作用はない。独特のなめらかな風合いも藍ならではのものである。本物に触れさせ、藍の持つさまざまな力を実感させたい。

北海道では、伊達市や札幌市で栽培と染料の染（すくも）を作り、藍を建てての染色が传承されているのが有名である。

藍の栽培から藍建ては手間も時間もかかり一般的な授業で取り扱うのは困難かもしれないが、そこまでの作業を済ませた藍染料の既製品も販売されており、染めの作業自体は比較的簡単で、短時間で終わることができるので、授業の題材として取り入れやすい。一方で、既製品の藍染料を作るまでの過程を知るために調べ学習を行うことは、物づくりと社会（産業や伝統）との関わりについて、造形とは違った視点で考えるきっかけとなる。

なお、化学に興味のある生徒には、染料は有機化学の学習内容であり、実際に染めを体験することにより、楽しみながら、より実感を伴った理解につなげられる。

ク 本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準	◎Aの具体例、■Cへの手立て
<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形の要素である形や色彩、素材の働きを理解している。 ・藍染めの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 	<p>◎藍染の特徴について、多様な視点から理解したことを、記述や説明することができる。</p> <p>■特徴的な部分を示してより詳しく解説し理解を促す。</p> <p>◎造形的な特徴などを基に、幅広い視野に立って全体のイメージや作風、様式などで捉えたことを、記述や説明することができる。</p> <p>■特徴的な部分を示して気付きの機会を与え、考えさせる。</p>

<p>技</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めの方法を踏まえ、意図に応じて藍染めの技法を制作に生かしている。 ・ 手順や技法などを吟味し、主題を創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 藍染めの技法を踏まえ、意図に応じて多様な視点からその特性を効果的に生かして染めることができる。 ■ うまく染まらない原因を明らかにし、そのことに留意して制作させる。 ◎ 試作を生かし、技法を工夫し、創造的に表現できる。 ■ 試作の振り返りを促し、改善点などを見付けさせ、工夫させる。
<p>発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めの伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 藍染めの伝統的な表現の特性をよりよく生かし、知識を効果的に活用しながら、創造的な表現の構想を練っている。 ■ 比較的簡単で失敗の少ない藍染めの技法を示し、その中から興味のあるものを選ばせる。
<p>鑑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めのよさや美しさを感じ取り、作者の意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、藍染めの技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。 ・ 自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 多様な視点に立って、鑑賞したものから造形的なよさや美しさを深く感じ取り、知識を効果的に活用しながら意図や創造的な表現の工夫などについて、自分としての根拠をもちながら関連付けて捉え、見方や感じ方を深めている。 ■ 造形の要素ごと、技法や様式ごとに、感じ取れることはないか問いかけ、考えを促す。 ◎ 鑑賞したものから自ら感じ取った、自然と工芸との関わりや、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて、価値意識をもって見方や感じ方を深めている。 ■ 工芸と自然、工芸と生活、工芸と社会など焦点を絞って示し、考えさせる。
<p>態表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に美しさとの調和を考え、工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 藍染めならではの美しさとの調和を考え、よりよい作品となるよう、試行錯誤を重ねて創意工夫して、粘り強く創造的に制作しようとしている。 ■ 発想段階から、一つ一つの工程を確認し、丁寧に作業を積み重ねさせる。
<p>態鑑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的によさや美しさを感じ取り、工芸の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 藍染作品のよさや美しさを感じ取ったり、生活や社会との関わりについて幅広い知識や体験と関連付けて考察しようとしている。 ■ 造形の要素、技法や様式、他教科との関わりなどから興味を持てることはないか問いかけ、考えを促す。

生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化について見方や感じ方を深める鑑賞

ケ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

生徒の作品など学習成果の共有だけでなく、生徒同士のグループ活動でどのような気づきがあったかを可視化して共有するなど、生徒が学習の過程を把握できるよう、共有ドライブを用いて、Jamboard やプレゼンテーションソフト等のデータを格納することにより、授業改善とともに、生徒の学習改善に生かすことができる。

(4) 書道Ⅱの計画例

ア 単元名 「見学旅行の思い出を短歌に詠み、書で表現しよう」

イ 内容のまとめ 「A表現」(1)漢字仮名交じりの書、「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕

ウ 単元の目標

(ア) 「知識及び技能」

- ・漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解する。(A表現イ(ア))
- ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付ける。(A表現ウ(イ))
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解する。(「B鑑賞」イ(ア))
- ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。(〔共通事項〕ア)

(イ) 「思考力、判断力、表現力等」

- ・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成を捉える。(「A表現」ア(ア))
- ・生活や社会における書の美の効用と現代的意義を捉える。(「B鑑賞」ア(イ))

(ウ) 「学びに向かう力、人間性等」

- ・書によさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、漢字仮名交じりの書の表現の創造的な学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[共通事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解している。【知】【表現】 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解している。【知】【鑑賞】 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。【技】 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成を捉えている。【思】【表現】 ・生活や社会における書の美の効用と現代的意義を捉えている。【思】【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書の表現の創造的な活動に主体的に取り組もうとしている。【態表】 ・書によさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、鑑賞活動に主体的に取り組もうとしている。【態鑑】

※《本単元に関する既習事項（書道Ⅱ）》

- ①「漢字の書の学習」（行書・温泉銘）
- ②「漢字仮名交じりの書の学習」（温泉銘の書風に基づく漢字仮名交じりの書）
- ③「仮名の書の学習」（継色紙）

オ 単元の指導と評価の計画（全8時間）◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価

時 (次)	学習活動等 (学習活動の概要、指導上の留意点)	評価の観点		
		知・技	思・判・表	態
1～2 (1次)	・見学旅行(京都、奈良)の思い出を短歌にしたためる。			◎
3～4 (2次)	・制作した短歌の文字を字典で調べる。 漢字…唐代全般の行書を基本とする。 仮名…教科書の平仮名一覧表を活用する。 ・継色紙の構成に基づき草稿を作る。	◎	◎	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICTの活用】 Jamboard等のスライド機能を活用し、行間や行頭・行末の高さ、文字の組み合わせの調整等を行い、草稿を完成させる。</p> </div>				
5～6 (3次)	・作品を制作する。 ・作品制作カードに記入する。	●		
7～8 (4次)	・作品鑑賞を行う。 ・ <u>タブレット等を活用して作成した草稿と完成した作品を比較する。</u>	●	●	●
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICTの活用】 ・Jamboard等のスライド機能を活用し、作成した草稿と完成した作品を並べ、比較する。 ・スライドを全体で共有し、他者の草稿と完成作品の比較を鑑賞することができるようにする。</p> </div>				
・本単元の振り返りを行う。				

カ 学習指導案（3・4時間目/8時間中）

活動の流れ	時間	学習活動等	指導上の留意点	評価の方法				
				知	技	思	態表	態鑑
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名文字は平安貴族を中心に使用され書として発展したことや、継色紙の散らしは日本人の自然観や美意識とも関連していることについて復習し、見学旅行の短歌を継色紙の構成で書くことの意義を確認する。 ・継色紙の構成と調和するようこれまでに学習した行書 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元のねらい、目標を確認し、これまでの学習との関連について理解させる。 					

		(温泉銘の書)を仮名と調和させて書くことを確認する。						
展開	85分	<ul style="list-style-type: none"> 前次において制作した短歌の文字を調べる。 ○漢字…温泉銘を基本に唐代全般の行書を集収する。 ○仮名…教科書の平仮名一覧表を活用して文字を集収する。 継色紙の構成を再度確認し、<u>タブレット</u>等を活用して空間、余白等に留意しながら草稿を練る。 <div data-bbox="300 779 740 1171" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ICTの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書道字典及び平仮名一覧表から文字を取り込み、行間や行頭・行末の位置等を調整して草稿を完成させる。 清書の色画仙紙の色についても、背景の色を変えることで、色と書風の調和などの書の表現効果を考える。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字については時代の整合性に留意し、生徒の取組状況を確認する。 書の観点及び書を構成する要素における文言を活用しながら助言し、生徒が<u>継色紙の構成を生かして草稿を作る</u>ことが出来るように支援する。 清書では色画仙紙を用いることを伝え、完成させたい作品のイメージと関連づけて思考させる。 					<div data-bbox="1054 405 1469 580" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「余白」、「空間性」、「時間性」、「運動性」等、全体構成に関わる文言を用いて助言を行う。</p> </div> <div data-bbox="1054 786 1469 920" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>漢字と仮名の調和も意識しながら大きさや位置を考えるように促す。</p> </div>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本次の活動を振り返る。 次回、草稿を基に、作品制作を行うことを予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 草稿が完成していない生徒がいた場合は、完成させておくように指示する。 					

観点別学習状況の評価の例

評価の観点と単元の評価規準		<p>○「おおむね満足である」状況（B）の例</p> <p>◎「十分満足できる」状況（A）の例</p> <p>◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て</p>
知識・技能	知	<p>・漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解している。</p> <p>【表現】</p> <p>○漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素についておおむね理解している。</p> <p>◎上記に加え、余白の意味や効果、余白の美についても深く理解している。</p> <p>◆それぞれの要素についてこれまでの学習と関連させながら理解できるよう支援する。</p>
	技	<p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解している。</p> <p>【鑑賞】</p> <p>○線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについておおむね理解している。</p> <p>◎上記に加え、時間性や空間性との関わりについても深く理解している。</p> <p>◆名筆や現代の書の例を取り上げ線質、字形、構成等の要素が表現効果と深く関わっていることを理解できるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	技	<p>・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。</p> <p>○漢字と仮名の調和した線質による表現の技能をおおむね身に付けている。</p> <p>◎上記に加え、律動性、リズム、気脈等の調和も図られた感性豊かな表現の技能を身に付けている。</p> <p>◆具体的に改善すべき部分を確認し、一部を範書するなどして漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けられるように支援する。</p>
	思	<p>・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成を捉えている。</p> <p>【表現】</p> <p>○目的や用途、表現形式に応じた全体の構成をおおむね捉えている。</p> <p>◎上記に加え、自らの構想に基づき、感性を働かせて表現している。</p> <p>◆継色紙の表現形式の特徴を復習し、作品制作に生かせるよう支援する。</p> <p>・生活や社会における書の美の効用と現代的意義を捉えている。</p> <p>【鑑賞】</p> <p>○鑑賞に関わる知識を生かしながら、生活における書の美の効用と現代的意義についておおむね捉えている。</p> <p>◎上記に加えて、書特有の美が生活を豊かにしたり、社会に影響を与えたりしていることを実感的に味わって捉えている。</p> <p>◆鑑賞の観点を再度確認し、これまで学んできた知識と関連させながら、感じたことや考えたことを言語化できるよう支援する。</p>

主体的に学習に取り組む態度	態表	<p>・漢字仮名交じりの書の表現の創造的な活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○漢字仮名交じりの書の表現の創造的な活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎上記に加えて、漢字仮名交じりの書を深く味わい、主体的に表現活動に取り組もうとしている。</p> <p>◆既得の知識を生かして、主体的に臨めるよう支援する。</p>
	態鑑	<p>・書のおよさや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、鑑賞活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○書のおよさや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、鑑賞活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎上記に加えて、作品や書の伝統と文化の意味や価値について深く考えようとしている。</p> <p>◆見学旅行を通して味わった日本人の自然観や美意識と書の関連について取り上げ、主体的に臨めるよう支援する。</p>

キ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

(ア) タブレット等を活用した草稿作り

タブレット等を活用し、漢字は書道字典から、仮名は教科書の平仮名一覧表から文字を取り込み、画面上で、文字をトリミングや拡大縮小したり、行間や行頭・行末の位置等を調整したりして草稿を完成させることにより、効果的な指導が可能となる。例えば、草稿途中のものを保存し完成版と比較すること、画面共有して他者の草稿と比較すること、参考にした継色紙と並べて改善点を示すことなど、様々な指導ができる。

本事例では、第4次において、草稿と完成した作品とを比較し、生徒に自己評価をさせるが、その際、タブレットに草稿の過程や作品制作の過程を記録しておくことで、生徒に自身の取組を客観的に確認させて、振り返りを促すことができる。また、第3次の清書の際には、色画仙紙を使用するため、背景の色を変えることで、画仙紙の色と書風との調和を考えながら草稿を進めるように促すことができる。

(イ) 「共通事項」、「書を構成する要素」を意識した言語活動

〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習において共通に必要な資質・能力であり、書の特質や書的美を捉えて表現したり鑑賞したりする上での観点とも言える。この資質・能力を育成するために、①時間性と運動性、②書の表現性、③書を構成する要素、④造形性と空間性の4つの視点の関わりや働きについて理解を促す言語活動の工夫が大切である。

今回取り上げた事例「漢字仮名交じりの書」では、「書を構成する要素」として、

- ・ 用具・用材の特性や用筆・運筆から生まれる「線質」
- ・ 書風が端的に表れ、書風を形づくる「字形」
- ・ 文字構成、全体の構成等の「構成」
- ・ 「線質」、「字形」、「構成」を支える要素として、「墨色」や「余白」等が考えられる。

これらの要素を積極的に用いた言語活動を適切に位置付けて指導することで、生徒は実感的に、「書を構成する要素」の特性を効果的に働かせ、多様な「表現性」、様々な「表現効果」や「風趣」を作品にもたらしることが期待できる。